

令和2年度第3回蒲郡市子ども・子育て会議 議事録

日 時	令和2年8月19日（水）14：00から15：55まで
場 所	蒲郡市民会館 大会議室
出席者	（委員）18名出席 ※別紙出席者名簿のとおり （事務局）子育て支援課：次長、主幹、課長補佐、課長補佐、指導係長、主事、主事補
配布資料	<ul style="list-style-type: none"> ・令和2年度第3回蒲郡市子ども・子育て会議 次第 ・資料1 令和2年度第2回蒲郡市子ども・子育て会議 議事録について ・資料2 子ども・子育て支援事業計画の令和元年度進捗状況の点検・評価について ・資料3 蒲郡市保育園グランドデザインの骨子案について ・コンシェルジュだより

議事：（進行）事務局 高橋晃市民福祉部子育て支援課長

- 蒲郡市小中学校 PTA 連絡協議会 丸山悦子 欠席
- がまごおり・こども発達相談室ふれあい 山本由美子 欠席
- 蒲郡市社会福祉協議会 岡田隆二 欠席
- 健康推進課長（代理岡本保健師） 欠席
- 福祉課長（代理谷口主幹） 欠席
- 資料の確認

1 あいさつ

（渡辺会長） みなさんこんにちは。今年は夏休みが短くなり一昨日の月曜日から小学校、中学校が再開されました。みなさんも子どもたちが登下校する様子をご覧になったかと思います。今年は蒲郡市さんのおかげで小学校も中学校も普通教室全てにエアコンがつけました。7月に学校訪問に行った折には、とても快適な中で子どもたちが勉強していて私もとても嬉しくなりました。8月になってからは連日猛暑が続いておりますのでエアコンはどれくらい効いているのかなと少し心配しています。しかし、ある小学校の担任の先生から子どもたちは「エアコンも効くし友達もいるし給食もあるから学校は楽しい。」と言っており、勉強が遅れているので夏休みが短くなってしまふこともちゃんと理解している。と聞いて少し安心しています。すべてのお子さんがそのように学校が楽しいと思っているかと言えば少し違うかもしれませんが、大勢の子がそう言っているということはとても嬉しく思っています。

保育園や幼稚園でも先生方と一緒に子どもたちが本当に楽しく暑い中活動しているのではないかなと想像しています。その裏には先生方の本当に大変なご配慮、ご支援などがあるのではないかなと思ひ感謝しております。今日は蒲郡市子ども・子育て支援事業計画について前回話し合ったところの確認をするとともに、蒲郡市保育園グランドデザインの将来の保育園・幼稚園のあり方を検討していくという大きな議題もあります。今日は初めて目にされた方もいらっしゃるのではなかなか意見が言いにくいかもしれませんが、日

ごろ思っていることや今日の説明を聞いて思ったことを全て出していただけるとありがたいなと思います。後悔のないように意見を出していただければと思っていますので、よろしくをお願いします。

2 議題

(1) 令和2年度第2回蒲郡市子ども・子育て会議 議事録について

質疑応答

(河合委員) 早速ですが修正をお願いしたいと思います。資料1の3枚目で河合が発言しております最後の行に「みなさん努力し」というところがありますが「公立・民間共に」と申し上げた記憶がありますので、その前に「公立・民間園がより良い保育を目指しそれぞれ保育環境を整えられていると思います。」と置き換えていただけるとありがたいです。お願いします。

(渡辺会長) それでは私のあいさつのところを、また読んで分かるように後ほどまた修正していただきたいと思います。2点目が、4ページ目の私の発言、事業番号8の質疑応答のすぐ下の私の発言ですが、「例えば事務を雇うなど」とありますが「事務員」としていただくようお願いいたします。あいさつの部分とここの部分で2つです。

その他、ありますでしょうか。

(事務局白井) 事務局の白井です。2ページ目の下から4行目の事務局高橋と書いてあるところの「低年齢児保育のニーズは年々高まっていて、これに答えて」というところの「答えて」を「応えて」という字に修正したいと思います。それと、3ページ目の真ん中、右側のところに4分19秒という時間を消し忘れてしまいましたので、削除させていただきたいと思っています。

(渡辺会長) では以上2点でよろしいでしょうか。

(事務局白井) はい。

(渡辺会長) それでは、議事録については修正をお願いします。次の議題に移ります。

(2) 子ども・子育て支援事業計画の令和元年度進捗状況の点検・評価について

(事業番号1から7の修正点について事務局白井から説明)

- 事業番号1 1号認定（3歳以上保育の必要なし）
 - 事業番号2 2号認定（3歳以上保育の必要有り）
 - 事業番号3 3号認定（3歳未満保育の必要あり）
 - 事業番号4 時間外保育事業（延長保育事業）
 - 事業番号5 放課後児童健全育成事業（児童クラブ）
 - 事業番号6 子育て短期支援事業（ショートステイ）
 - 事業番号7 地域子育て支援事業（子育て支援センター事業）
-

質疑応答

事業番号1から7について委員からのご意見は特になし

(事業番号8から14の修正点について事務局白井から説明)

●事業番号8 一預かり事業

●事業番号9 病児保育事業

●事業番号10 子育て援助活動支援事業（ファミリー・サポート・センター）の就学児童対象部分

●事業番号11 利用者支援事業（子育てコンシェルジュ）

●事業番号12 乳児家庭全戸訪問事業（こんにちは赤ちゃん訪問）

●事業番号13 養育支援訪問事業

●事業番号14 妊婦健康診査

質疑応答

事業番号8から14について委員からのご意見は特になし

(3) 蒲郡市保育園グランドデザインの骨子案について

(蒲郡市保育園グランドデザインの骨子案について事務局白井から説明)

質疑応答

(渡辺会長) 何かご意見、ご質問ありますか。

(榎本委員) がまごおり児童館の榎本です。南部保育園の上になまごおり児童館があり、子どもが南部小学校に行くから南部保育園がいいと言われる母親が多く、「南部保育園はとても人気が高くなかなか入るのが難しいでしょうか。」と言われることもあります。南部小学区の子は南部保育園、竹島小学区の子は府相保育園に通うといったイメージが母親たちの中にもあるようなので、小学校区に対して保育園を置くとなると今までとあまり変わらなくなるので、中学校区で考えていくのが良いのではないかと思います。また、今私は児童館にいますが数年前は保育園に努めていました。塩津保育園に努めていた時の経験からなのですが、塩津地区には塩津保育園、塩津北保育園、民間の鹿島こども園があります。さらにあけぼの幼稚園もあり、あけぼの幼稚園に行く方も多くいます。塩津保育園、塩津北保育園に通う方は少なくなってきたので、このように考えていただけるのはありがたいと思いました。

(渡辺会長) ありがとうございます。榎本さんからは今日まさに議論していただきたい部分のご意見をいただきました。事務局のほうから何か説明はありますでしょうか。

(事務局白井) 別紙の「学区割と学区に所在する保育園等」という資料をご覧ください。こちらにつきましては中学校区、小学校区にどの保育園等が所在しているかを示したものです。公立保育園、民間保育園、民間認定こども園、民間幼稚園がそれぞれの図で示してあります。保育園は小学校、中学校と異なり学区というものがありませんが、「施設の更新」や「保育サービスの統一」といった課題の解決方法を踏まえて、今後の公立保育園のあ

り方をこれから検討していきたいと思います。そこで、どの範囲にどれだけの保育園が要るのか考える必要があると思います。範囲については例えば小学校区単位や中学校区単位、もっと広い地域で考えるなど様々な方法があると思います。まず、範囲の考え方について委員の皆様のご意見をいただきたいと思います。そして範囲が決まりましたら、その範囲の中で考えられる保育園の配置パターンについてご意見をいただきたいと思います。その後、次回の第4回子ども・子育て会議にてパターン等を検証させていただき、まとめていきたいと考えております。

(渡辺会長) はい。そうすると例えば小学校区で考えるとなると蒲郡地区を見ると小学校が3つあります。こういった小学校区で考えていくのか、先ほど榎本先生が言われたような中学校区で考えていくのか、もしくはもっと大きな単位、例えば蒲郡中学区と中部中学区を一緒にして考えるのか、蒲郡全体として考えるのかといった大きな単位で考える方法もあります。どれが良いと思うかなど、そういったことを委員の皆様にご意見を出していただきたいと思います。それが決まりましたらその中でどういったふうにするのか今日は考えたいと思います。時間がかかるかもしれませんが、今すぐご意見がある方はいらっしゃいますか。

(七原委員) 父母の会の七原です。少し仕組みがよくわからないところがありますが大塚西保育園は定員割れをするなど園児の人数が少ないと思います。また大塚中学校は1クラスしかないが、大塚地区には保育園が2つあります。しかし、もう少し大きい学区の蒲郡、中部などの学区を見ると保育園が少ない感じがします。大塚や塩津などは保育園がたくさんあるのにどうして街中には少ないのかなと思います。しかし、一般的に見ると街中のほうに人が集中するのかなと思います。そのあたりをどうしていくかを知りたいです。どうでしょうか。

(渡辺会長) これに関連して何かご質問はありますか。

(七原委員) 大塚西保育園と大塚保育園が2つあり、例えば1つなくなったら戸惑いもあるがそれよりももっと中心に保育園が増えたほうがいいのではないかと思います。

(渡辺会長) ありがとうございます。こういった現状について事務局は何か分かりますか。

(事務局高橋) はい。将来の保育園のあり方をこれから考えていくのですが、そのためにはどういう単位で考えていくのかを考えます。あまりに大きすぎる単位で考えるとまとまらなくなり、細かすぎる単位で考えても地区によって異なる人口規模に対応できず偏りが出てきてしまうと思います。資料3の10ページに各保育園の現在の入所者と20年後の2040年ではどうなっていくのかという予想を載せてあります。こういったところからどの地区でどのくらいの人を受け入れる必要があるかという推測ができると思っています。こういった人数を充足させるような保育園の数が少なくとも必要だと考えられます。もちろん蒲郡の中心部に人口が密集していて子どもの数も多くなってくと思うので、必要な保育園の数は公立、民間ともに多くなると考えております。

(渡辺会長) ありがとうございます。他には何かありますでしょうか。

(山下委員) 商工会議所の山下です。今説明のあった資料3、10ページの(13)地区別入所者数の変化の「※2040年の入所見込み数は、地区ごとの就学前児童数見込みの減少率

と入所率見込みの推移から算出したもので、当該地区に居住する就学前児童が、いずれかの地区の保育園に入所する見込み数となります。」と書いてありますがこの意味がよくわかりません。標記が西暦と和暦が混ざっているのわかりづらいですが、2020年4月は令和2年4月を表していますよね。また、定員1,998名と書いてあって、その隣も同じ1,998名と書いてあります。これは今年の定員という理解で良いですか。そして2020年3月時点の入所者数の合計が1,670名で定員合計と300名くらい差があるのですがこの辺りはどんな関係でしょうか。次に2040年入所見込み数が1,956名という数字が出ているのですが、この流れが少し理解しづらいです。これらの数字がどういった関係になっているのか説明していただけるとありがたいです。

(渡辺会長) それでは事務局よろしくお願いたします。

(事務局高橋) はい。この表は確かに見づらい部分があります。和暦と西暦が混ざっているのを修正させていただきます。表の真ん中に「定員」という列が2列ありますが、中学校区単位と園単位でまとめたものです。数字の内容としては1,998名という同じ数字です。これは定員のことで、それに対して実際に入所している人数が2020年3月時点と書いてあるものです。よって保育園全体としては1,998名のキャパを持っていて、実際に入所しているのは1,670名ということです。そして2040年の入所見込み数をどうやって出しているのかというのは、ここにある「地区ごとの就学前児童数見込みの減少率」というのがわかりづらいのですが、現在の児童数に将来の人口減少率をかけて2040年の就学前児童数を出しました。さらに、それに2040年時点で見込まれる保育園の入所率をかけて出しております。具体的には資料3の5ページ(6)で2040年合計人数が1,956名となっていますが、これは2040年時点で推測される就学前児童数に2040年で推測される保育園の入所率を掛け合わせた数字です。そしてその数字を地区ごとに割り振ったものが資料3の10ページの表となります。

(山下委員) はい。これは資料3の3ページの「総人口の推移」と「出生数」の表を見ると数字が下がってきていますが、5ページ(6)の「入所児童数の推移」を見ると2020年が1,670名、2040年が1,956名となっていて数字が増えているように見えるのですが、これはちゃんと説明がつくのでしょうか。

(事務局高橋) そうですね。子どもの数は2040年に向けて減っていくのですが、保育園に入所する子どもの割合は増えていくということになります。

(伊藤委員) 1、2歳児が増える見込みということでしょうか。

(事務局高橋) そうですね。資料3の4ページを見ていただくと、例えば共働きの世帯が増えるなど。

(山下委員) わかりました。そこの部分が増えるから、ということですね。理解できました。

(事務局高橋) はい。

(渡辺会長) なかなか難しいですね。私も「どうしてここの数字は減らないのだろう」とわからなかったです。結局、現状は1、2歳児があまり保育園に入っていないと理解してよろしいのでしょうか。それがだんだんみんな保育園に通うようになるということですね。

(事務局高橋) そうですね。今よりまた増えていくだろうということですね。

(渡辺会長) ですので、今中学校区で数字は出していますが、これは2040年には大体このくらいの入所見込み数になるだろうという表であるということですね。ありがとうございました。

今みたいにわからないところは積極的に質問していただいて、どんな風に考えていけばいいか検討していきたいと思いますのでよろしくお願いします。

先ほど榎本先生がおっしゃったように「南部小学校に行くから南部保育園に行く。」という意識はやっぱりあるのかなと思います。私の子どもに関してもそうやって保育園を選んできたものですから。「小学校区で考えていくのか、もう少し大きな単位の中学校区で考えていくのか。それ以上大きくなるとやっぱりなかなか考えづらい。」と先ほど高橋課長がおっしゃったのですが、その辺りのことについて何かご意見あればお願いします。

七原さんお願いします。

(七原委員) 父母の会の七原です。中学校区で考えていくのはやっぱり難しいと思うのですが、やっぱり小学校の6年間はすごく長いと思います。その中で友達ができたりします。保育園の次は小学校なのでやはり自分の周りでも「小学校が〇〇小学校だから。」という声はよく聞きます。中学校で一緒にはなるがその前の小学校の6年間はすごく長いと思うので中学校区で考えるのは難しいのかなと少し思っています。

(渡辺会長) ありがとうございます。例えば「南部小学校に行くから南部保育園に行く。」というのが今までの流れだったということですよ。

何かそういったことについて違ったご意見のある方はよろしくお願いします。では、伊藤先生お願いします。

(伊藤委員) はい。この先小学校の統合の可能性というのはあるのでしょうか。

(渡辺会長) それではそれに関しては学校教育課の小澤先生、よろしいでしょうか。

(小澤委員) 学校規模適正化ということを今検討しています。今すぐどこに移るかなど、そういうことよりもまず教育委員会として適正な学校規模はどれくらいかということを検討している最中なので、今ここで将来的に学校がいくつになるか、どこを統合していくかということはすぐには言えません。よって、人口が減少していくことも踏まえてどういった規模が適正なのか、今検討し始めています。そのような理解でお願いします。

(渡辺会長) 伊藤先生他に何かありますか。

(伊藤委員) 恐らくですが、たぶん小学校も10年、20年、30年先には統合に向けて動いていくのではないかと思います。現状として保育園が老朽化していて、子どもたちを預けておくにも心配事が多いですよ。地震や土砂崩れ、津波など。そして今保育園のあり方というものを考えていくときに、これは来年、再来年のことではないですよ。30年、40年先のことを考えて統合して新しい建物を建てなければいけないということを考えると、小学校もこの先の将来のことと並行して考えなければいけないと思います。また、蒲郡の財政状況や子どもの少子化、保育士不足というののもかなり深刻ですよ。そういったことを考えたときに、やっぱり小学校単位で建物を建て替える、保育士を確保するよりは中学校区で考えていったほうが現実的ではないかと今は思います。かとい

ってまとめすぎてしまってもそれぞれの地域の地元の方からの理解を得にくいのかなと思います。既にみなさんに中学校区という単位の認識がある中で少子化、保育士不足、財政難などのいろんな状況を鑑みて中学校単位で進めていくということなら、より地域の方や保護者の理解が得られやすいのかなと思います。

(渡辺会長) はい。ありがとうございました。将来的なことを考えていくということ、蒲郡の財政を考えていくということ、そして小学校、中学校の統廃合のことも見据えて検討していくとやはり中学校区という単位で考えていったほうが良いのではないかというご意見だと思います。

(事務局高橋) 小澤先生に今学校規模適正化の検討をしているとお伺いしまして、現在中学校も小学校も規模の適正化をご検討されていると思います。中学校は7校、小学校は13校あり、今後子どもが減っていく中で統廃合というお話がありましたが、可能性として小学校が今後統廃合される可能性と中学校が統廃合される可能性はどちらが高いのでしょうか。答えにくいかもしれませんが、お願いします。

(小澤委員) 私一人の意見で決められる問題ではありませんが、今1クラスの人数が蒲郡は35人の学級です。他のところでは40人学級というところもありますので35人学級というのは教育的に非常にありがたいと思います。これが今後30人学級や25人学級となると当然クラス数は増えていき、それだけの教室が必要になってきます。そうではなくもっと1クラスの人数が多いほうが良いという流れになり、40人学級に戻すとなれば「こんなにたくさん教室は要らないので学校をもっとコンパクトにしていきたいと思います。」または「学校と学校を統合しましょう。」など、過去の話で言えば学校を分割していった経緯があるので元に戻すなどという議論があるかもしれません。よって現状でどこの中学校や小学校が統廃合されるといったことは答えようがありません。今一番に検討しているのは学校の規模がどれくらいになれば子どもたちの教育にとってありがたいのかということです。コロナ禍ということもあって密を避けている中で35人学級というのは非常にありがたいです。分散登校をずっとやっていかなければいけないという地域もあると聞いています。よってそのようないろんなことを考えていくと、どこどこが統廃合されるなどということは言えず、まず学校規模として蒲郡市はどうしていくか、ということをお話しているところです。またしかるべき時が来たら周知をしていくというスタイルになるかだと思います。このような回答で申し訳ありませんが、よろしいでしょうか。

(渡辺会長) 高橋課長、よろしいでしょうか。以前、いつ頃だったか正確には覚えてないですが、蒲郡は最初に中学校が6校あり、中部中学校ができて7校になりました。その前に小学校も形原北、中央、三谷東、竹島の4校が増設されたという経緯があります。統廃合するならそこからだという話が出ていた時があります。しかしそれはその時のお話であって、今小澤先生が「まだまだこれから検討していくという段階である。」とおっしゃいましたが、学校がこのように増えてきた経緯があるのでその辺りのこともこれから検討対象になっていくのかなと思います。

その他、どうでしょうか。小学校区で考えていくのか、中学校区で考えていったほう

が良いのかというご意見がありましたらお願いします。

河合先生お願いします。

(河合委員)

みどり保育園の河合です。どちらがいかというのは今日初めて表をもらった方にはこの表だけで何をどう考えていくか、疑問が多々あるかと思えます。保育所という施設は子どもたちが生活する場であり「何人が適正か。」という疑問が専門会議でも最初に出ました。適正人数は少なすぎても多すぎてもよくない、また、地域性の影響を考えるとはっきりした答えが出ませんでした。私が申し上げるのは大変おこがましいのですが、公立保育園の築後年数を考えるとすぐにでも施設を建て替えて安心安全な環境で子どもたちを育てたいという保護者の皆様をはじめ関わる方皆様が思うことであると感じます。そういう中でランドデザインというものを投げかけられたというのは大前進で、蒲郡市が子育ての環境を整えるために変わっていくとする姿だと私は感じ、大変評価しております。中学校単位なのか小学校単位なのか、それぞれのご意見があると思えます。1つ参考になればと思ひ話します。みどり保育園は地域的には中学校区では蒲郡という地域で、小学校区では蒲郡東部という地域に存在しています。では通っているお子さんたちが全員東部小学校区のお子さんかということ、そうではありません。形原から通う子も大塚から通う子もいらっしゃいます。民間保育園の特徴として保護者の方が例えば、みどり保育園の雰囲気や保育の内容、先生方の笑顔というどこかに惹かれた方がみどり保育園を選んでいただいたと自負しております。今年は7か所の小学校区から来ていただいておりますので、学区に捕らわれず、保育を選択される方もいらっしゃいます。民間保育園または幼稚園、またはこども園を保護者の方が保育を選択できる環境が整うことがベストだと思います。その中で最優先に考えたいのはハザードマップの中で危険とされている地域に保育所はあるべきではないと考えます。子どもたちの生活の場は安心安全な所を確保することが最優先です。次に、望ましい保育環境を整えることです。利便性、保育内容、人材確保等保育環境には様々な条件が考えられますが、資料3の10ページの表を見ていただきますと、定員数に対して入所希望の少ない保育園や少人数で保育をしているところは保護者のニーズとズレていないか？具体的な見直しが必要です。大きな単位で、大きな目で保育所を考えていくと、合併という方向性も見えてくるのではないのでしょうか。保護者の方の選択肢の幅が広がることは、大きなポイントだと思います。以上の点を考慮していただけるとありがたいと思ひます。以上です。

(渡辺会長)

ありがとうございました。みどり保育園に通う子は7つの小学校区から来ている。みどり保育園に通っている子はそれほど小学校区にこだわってはいないのではないかといいことですね。木船幼稚園もそうでしょうか。

(伊藤委員)

はい。

(渡辺会長)

やっぱりそうなんですね。木船幼稚園を選んで来ているということですね。それから今河合先生からご指摘のあったのは資料3の10ページのところでいうと大塚西保育園が15人しか園児がいなかったため、この辺りのことももう少し考えたほうがいいのではないかといいこと。塩津北についてもこの11人のところはどうでしょうか。

(事務局高橋) 塩津北保育園については今年度で廃止になります。

(渡辺会長) そうすると塩津北保育園がなくなってしまうのですが、塩津保育園は今非常に危険な場所にあるという現状がありますよね。

(事務局高橋) 擁壁などの対策はされてはいます。ハザードマップ上は土砂災害警戒区域という区域にはなりません。

(渡辺会長) すみませんでした。しかしそういう場所にあるということも現実ですのでその辺りはいち早く考えていきたいところですね。

小学校区で考えていきたいというのも親の気持ちとして本当にとってもよくわかるし、しかし全体のことを考えると中学校区で考えるのはどうかというご意見もいただきました。七原さんどうでしょうか。

(七原委員) 私はみどり保育園に子どもを通わせています。上の子が2人いて上の子2人は豊橋の幼稚園に通わせていたのですが、その理由はその豊橋の幼稚園のやり方がいいかなと思ひまして、豊橋までわざわざ何年間か通っていました。最初に一番下の子をみどり保育園に入れたときは年少になるタイミングで転園するのかなと思っていましたが、みどり保育園さんのやり方もいいのかなというのと、小学校区は東部なんですけどやっぱり友達も近くにいて、今年長ですがそのままみどり保育園さんにお世話になっています。やっぱり民間だからどうこうではないのかなと思います。預けている保護者は民間も公立も関係ないのかなと思います。民間だからできるけど公立はできないみたいなことは保護者にとっては「なんで公立はできないの。」というような気持ちにはなると思います。もしそうであれば、そんなに距離も変わらないのであれば民間の方がいいというふうになってきてしまうのかなと思います。保育の質や、保護者のニーズに沿って考えてくれる保育園を設置してくれたらいいなと思います。

(渡辺会長) そうすると結局中身の話になってきますよね。小学校に上がるからその地区の保育園に行くという考え方よりも、やっぱり保育園の質などの中身から保育園を選ばれるということですね。ありがとうございました。

(事務局高橋) 公立の場合だとサービスに偏りがあるというか、先ほどの説明にもありましたが資料3の5ページ(7)にあるように低年齢児保育や延長保育の実施状況が園によって違いがあります。大塚西保育園は低年齢児保育も延長保育もやっていませんが、これは施設的に対応できないということもあります。サービスを増やしていくと保育士もそれに応じて確保する必要があり、なるべく充実させるということは考えてはいますが、なかなかすぐには対応できない部分もあります。そういう中で建物は古くなっていきます。このランドデザインの中では将来に向けて公立保育園の責任として、どの地区でも同じようなサービスを受けられるようにしていきたいです。例えば施設を建て替えるときに統合も視野に入れることで保育士の集約をし、効率的に保育士を配置することで、その分サービスの充実も可能ではないかと考えながら保育園のランドデザインを考えていきたいと思ひます。今は小学校区単位で保育園が配置されておりますが、それぞれの保育園が老朽化しているという状況でどんな配置にするかを考えていきたいと思ひます。もちろんどの程度の地区のまとまりで考えていくかという議論も必要

だと思います。しかし保育園には学区があるわけではないので地区を跨いで通うということもできます。それに関しては保護者の方の希望が最優先です。ただ、お子さんを地域で育てたいという方もいらっしゃいますので、その場合にどの程度の規模の区域で考える必要があるのか。あまりにも狭くても選択肢がなくなるかもしれないし、広すぎて通うのが大変になるかもしれません。その辺をどうしていくかということだと思います。

(渡辺会長) はい。それでは少し煮詰まってきたので振って申し訳ないですが、愛教大の鈴木先生、これから考えていく上での何か視点を与えていただけるとありがたいなと思います。

(鈴木委員) はい。鈴木と申します。たぶんこのお話というのは施設の老朽化があるので早急な対応が必要だと思うのですが、何十年単位の話なんだろうなと思います。一齐に5年後に全部の保育園が建て替えというわけではないですよ。長ければ40年、50年後までの間にどうなっていくかだと思います。私は蒲郡市民ではないですが人口動態としてそんなに大きく今からどこかの地域だけがが増えていくということも減っていくこともないのかなと見受けられます。人口動態という点で見ると施設のサイズを多少フレキシブルにしておかないと、細かく切ってしまうとここに1個あるからもう1個作れないとなるかもしれない。小澤先生がおっしゃったように中学校区も小学校区もまだどうなるかわからないので、概ね中学校区くらいの単位で、例えば今見ると小学校の単位でいくと13区が必要ということになり、ランドデザインの財政的な点から見るともう少し減らさないと対応できないのではないかとということと、そのうちのいくつかを民間に委託をするような形をとらないと財政的に建て替えは不可能だと思います。小学校区と先ほど河合先生がおっしゃった選択権という点で、「この地域には民間保育園しかなく、この地域には公立保育園しかない。」となるような小学校区単位で区切ってしまうよりは、中学校区くらいの単位で公立も民間も両方があったほうが良いと思います。もしかしたら10年後、20年後にはこども園にしていくという可能性もあるので、少し大きいサイズで考えて、もしそれが中学校区であれば「絶対にその中学校区からはみ出たはいけない。」としないように考える。11か12園くらいを分散させると財政的にも人口動態的にも良いのではないかと思います。それから低年齢児が増えていくと思うので、保育園に歩いて通うより働く保護者が車で通うと想定するとエリアとしてはかなり広がるような気がしています。私自身は豊田市民でトヨタ自動車の本社のすぐ目の前の保育園に子どもを通わせていたのですが、そこに通う子どもたちは20の小学校区の地区に分かれるという、そこで働いている人たちの拠点になっている保育園です。よって今とはかなり状況が違うことを想定していくと結果的には小学校単位で配置される保育園もあるのかもしれませんが、大きい単位で考えておけばあとで割ることができると思います。こども園になっていくと考えると、概ね中学校区くらいの単位で考えておいたほうが良いのかなと思います。

(渡辺会長) 鈴木先生すみません。こども園になるとサイズというのはどう変わるのでしょうか。

(鈴木委員) そう変わらないと思いますが、幼稚園型のところもあるでしょうし、保育園型のところ

るもできるかもしれません。選択として多様になってくるかなと思います。1つの中学校校区の中に3種類くらい混ざっているという考え方ですね。やっぱり地域の中で育てるのが理想だとは思いますが。40年後くらいまでを見据える必要があると思います。

(渡辺会長) ありがとうございます。小学校の統廃合を考えていく上でもそのようなスパンで考えていくことになると思います。

(七原委員) 東部小学校に東部保育園、南部小学校に南部保育園などのように同じ名前がついているので、名前が同じだとその小学校、保育園に行くというイメージになってしまうと思いますので鈴木先生がおっしゃたように中学校区単位で考えていってもいいのかなと思います。小学校と保育園の名前が同じだと通う保育園をそのイメージで選んでしまうと思います。

(渡辺会長) 名前を変えるということですか。

(七原委員) 名前を変えるというよりは、統合したときに「東部小学区なら東部保育園に行く。」といったイメージがあると思うので、そうなる小学校区で考えるというところに繋がってしまうと思います。

(渡辺会長) はい。いろんなイメージというか、保護者の方もこれから子育てをするにあたって地域を選択するよりも、鈴木先生がおっしゃったように働く場所によって保育園を選択するなどいろんな選択肢を持てるようにすることが大事だと思っています。小学校区で考えていきたいということもあるけれど、中学校区で考えていったほうが良いのではないかという感じの意見が今のところ多いように見受けられますがどうでしょうか。

(コンシェルジュ白井) コンシェルジュの白井です。子どもにとってその子がどこで生活するのが良いのかというのは最優先に考えてあげるべきことで、大事なことだと思います。私たちは入園先をどのように選んだら良いかをお母さんたちから相談されることがあります。保育園はすごく長く通う場所です。0歳から通えば小学校卒業くらいまでの年数を通う場所なので、とにかくお母さんが無理をしなくて行ける場所、生活パターンの中に入れてときに苦労しないで行ける場所が良いとお話しさせてもらっています。例えば名古屋に電車に通っている方も当然いらっしゃいますので、そうするとやっぱり駅の近くで通いやすい保育園を選ぶのは当然です。それが例えば形原の方であっても南部保育園や中部保育園のような駅の近い保育園に通いたいというのは当たり前のことです。子どもにとって良いところというのも、もちろん大事なことですがお母さん自身が無理をせず家族がみんな協力して子育てしながら通える園を選べるようになればいいなと思っています。保育園なのであまり小学校区などにこだわらなくてもいいのかなとは思いますが。

(渡辺会長) はい。ありがとうございます。事務局何かありますか。

(事務局金沢) 先ほどの話に戻りますが、「東部小学校区だから東部保育園に行く。」など、私が小さいときは園区というものがあり、そういう昔のところから今の名前ができていますので名前についてはそれが始まりだと思います。

(渡辺会長) ありがとうございます。皆様いろんなご意見をいただきましたが、まだ話されていない方で何かありますか。よろしいでしょうか。全体としては中学校区単位くらいの大

きさで考えていくのが良さそうだという感じですが、そのように進めていくということでもよろしいでしょうか。本当にいろんな意見をいただきありがとうございました。

(事務局高橋) 今中学校区で考えたほうが良いのではというお話がありましたが、となると次の検証としては中学校区でどのような保育園があり、どのような現状があるのか、それぞれの園の特性を地区ごとに分析していかなければならないと思います。それが合わさって1つのランドデザインになっていくと思います。そして次回、事務局で整理した地区ごとの特性をお示ししたいと思います。

(渡辺会長) ではこの続きは次回に持ち越しということでもよろしいでしょうか。次回もみなさんどうぞよろしく願いいたします。

(4) その他

事務局白井から子育てフェスティバルの中止、子育てコンシェルジュ通信について説明

(次回会議について)

(事務局白井) 蒲郡市保育園ランドデザインにつきましては本日の会議でいただいた意見をもとに、次回各地域の検証をできるよう資料をまとめたいと思っております。次回の会議に関しては次第のとおり10月22日(木曜日)の午後2時から303会議室で開催を予定しております。よろしく願いいたします。

以上